

20歳を過ぎたら

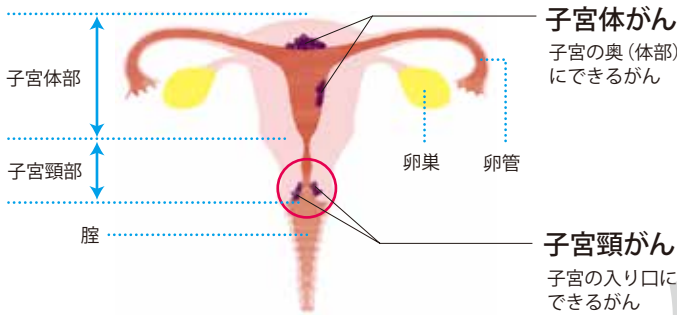
あなたの子宮は大丈夫？

子宮頸がん検診を受けよう

監修：対馬ルリ子先生 対馬ルリ子女性ライフクリニック銀座院長 産婦人科医・医学博士

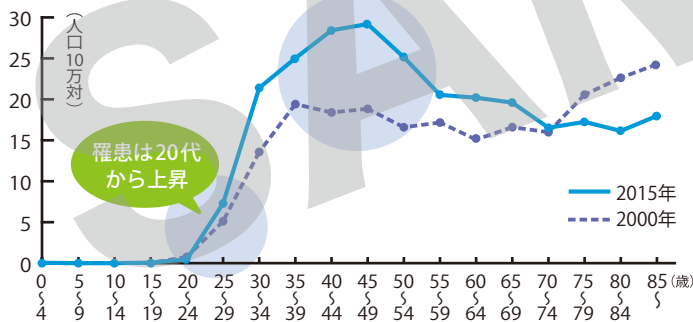
子宮頸がんは20代から急増します 若いからといって油断はできません

子宮がんには、子宮頸がんと子宮体がんの2つがあります。子宮体がんの発症のピークは50代。一方、子宮頸がんの発症のピークは30代～40代で、患者数は20代から急激に増えていきます。若いから大丈夫と安心してはいられません。



子宮頸がんの罹患率の比較

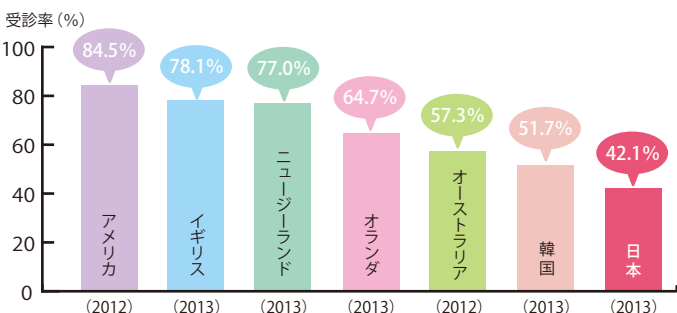
25歳以降、30～40歳代に罹患率は急上昇カーブを描きます。2000年と2015年の比較では罹患年齢の若年化と罹患率アップの傾向がわかります。その背景は性交渉の若年化と、この年代の検診受診率の低さと考えられています。



出典：2000年、2015年
国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター罹患データ

ワンポイント 日本では年間約3,000人、毎日およそ8人の女性が子宮頸がんによって亡くなっていることになりました。

子宮頸がん検診受診率の国際比較



※20～69歳の子宮頸がん検診受診率を比較しています。(日本医師会「知っておきたいがん検診」より)



早期がんの段階ならほぼ100%治癒します

子宮頸がんは最初はほとんど症状がなく、早期発見は検診が唯一の手段。定期的に検診を受けていれば、がんになる前の前がん病変やごく初期の段階で発見できます。早期の段階で治療すれば手術でほぼ100%治癒し、妊娠も可能です。

子宮頸がんは20代の女性のかかるがんの第1位です

子宮頸がんは性交渉で感染するがん 誰もがかかる可能性があります

子宮頸がんの主な原因は、性交渉でうつるヒトパピローマウイルス(HPV)。HPVは性交渉の経験のある女性の約8割が一生に1回はかかるごくありふれたウイルスです。HPVの中で将来がんになる可能性のあるのは、ハイリスク型と呼ばれるタイプ。中でも子宮頸がんの発症原因の大半を占めるのがHPV16型と18型です。これらのハイリスク型に感染しても多くの場合、その人のもつ免疫力によって排除されて、2年以内に自然に消滅してしまいます。ところが約1割ほどの人は、HPVを排除できず持続的に感染してがんへと進行します。

すこし勇気がいるかもしれないけれど
唯一予防できるといわれているがんが子宮頸がんです。
ご自身のためぜひ受けましょう。



～子宮頸がん検診で行うこと～

検査そのものは
5分程度で
終わります。



内診

膣内と子宮の入り口の状態をチェックします。次に膣の中に入れた指とおなかの上に置いた手で、子宮や卵巣のかたさや向き、周辺の痛みなどを調べる診察です。

頸部細胞診

子宮頸部（子宮の入り口）を専用のブラシやヘラなどで軽くこすって細胞を採取。採取した細胞を顕微鏡で見て、異常な細胞を見つけます。

オプション 経膣超音波検査

経膣超音波検査では、子宮全体や卵巣の様子、大きさなどが確認できます。子宮頸がん検診と併用することで、子宮筋腫や子宮内膜症、卵巣腫瘍、卵巣のう腫などの病気も見つけやすくなります。



～子宮頸がん検診ここが知りたい～

Q 検査は痛いの？

検診用の綿棒やブラシで子宮の入り口を軽くこすって細胞をとるだけの簡単な検査です。少し違和感があるかもしれませんが、痛みはほとんどありません。

Q 生理中に受けてもいい？

生理中は必要な細胞が十分に採取できないこともあるので、原則として避けてください。ただし、経血が少量の場合は採取できることも。スタッフに相談してください。

Q 検診前に膣の中を洗ったほうがいいの？

膣内を洗浄しすぎると、正しい検査ができなくなることがあります。入浴やビデなどで膣内を洗わずに自然な状態で検診を受けてください。検査前日の性交も避けます。

Q 内診台に上がると緊張してしまう

体が緊張すると膣が狭くなって、かえって痛みを感じる場合があります。息を吸って、口からゆっくり吐く腹式呼吸を行うと力も抜けてリラックスできますよ。

Q 検診結果が「異常なし」なら安心？

検査結果が「異常なし」であっても、将来的に子宮頸がんが引き起こされる可能性がゼロではありません。検査後あらたに感染する場合があります。年に1回は定期検診を。

Q 要精密検査の通知が、がんでしょうか？

精密検査を受けて、実際にがんと診断される人は少数です。要精密検査＝がんではありません。不安な気持ちを持ち続けられないためにも、必ず精密検査を受けましょう。